

考える。

地域がん登録事業は、病院・大学・医師会員・行政など、関係の方々のご協力に支えられて継続できるものと信じている。ご協力くださる皆様の信頼と期待に応えられるよう、今後も努力していきたいと思う。

地域がん登録全国協議会 第 13 回総会研究会を終えて

辻 一郎

宮城県新生物レジストリー・東北大学大学院医学系研究科

昨年 9 月 3 日に仙台市・宮城県庁講堂で開催いたしました地域がん登録全国協議会第 13 回総会研究会をお世話させていただきました。当日は全国各地より多数の方々にご参加いただき心よりお礼申し上げます。

今回の研究会では「地域がん登録と疫学研究」をテーマとし、わが国の地域がん登録のデータがこれまでどのような形で疫学研究、健康政策や臨床ガイドラインに生かされてきたかを振り返るとともに、それをふまえて今後、地域がん登録事業とそれを活用した疫学研究、医療施策のさらなる充実をはかるための課題や展望に関して理解や議論を深めることを目的といたしました。

3 日午前のシンポジウムでは「大規模コホート研究と地域がん登録」と題し、現在国内で進められ、がん予防に関する新たな知見を明らかにしつつある大規模コホート研究について、その概要と地域がん登録データの活用方法を中心にお話しをいただきました。宮城県コホート（西野善一）、厚生労働省コホート（井上真奈美先生）、JACC Study（玉腰暁子先生）、三府県コホート（祖父江友孝先生）、広島長崎被爆者コホート（児玉和紀先生）についての各先生のご報告ならびにその後の討論より対象者のがん罹患状況の情報源としての地域がん登録の重要性が確認されました。

午後の特別講演では久道茂先生（東北大学名誉教授・宮城県病院事業管理者）より「宮城県におけるがん疫学研究とがん登録」についてご講演をいただきました。わが国で最初の地域がん登録である宮城新生物レジストリー設立の経緯とその後歩み、ならびに疫学研究、医療政策決定にこれまで果たしてきた貢献について、設立に尽くされた東北大学医学部公衆衛生学講座の初代教授である瀬木三雄先生のご業績とともにお話しがあり、さらに今後の地域がん登録のあるべ

き姿についてご提言をいただきました。

続く教育講演では大内憲明先生（東北大学大学院医学系研究科腫瘍外科学）、安富潔先生（慶応義塾大学大学院法務研究科・法学部）よりお話しをいただきました。大内先生からは、「乳がん検診ガイドライン作成の経緯とがん登録」の題で、マンモグラフィを原則とした検診指針作成に至るまでの過程とその際の地域がん登録データの貢献について臨床医として指針作成に携わった立場でご講演をいただきました。安富先生からは「個人情報保護とがん登録」のテーマで個人情報の概念、わが国の個人情報保護法制定の経緯およびその内容についてまとめていただいた後、がん登録事業と個人情報保護に関する現在の諸課題をふまえて今後のがん登録事業の方向性についてお話しがありました。

ポスター演題は 10 題の応募があり、吉田匡良先生の「長崎県における乳がんについて」が最優秀賞に選ばれました。

前日の実務者研修会では祖父江友孝先生（国立がんセンター）より「第 3 次対がん総合戦略研究事業と地域がん登録」、大島明先生（大阪府立成人病センター）より「地域がん登録個人情報保護ガイドライン」、金子聰先生（国立がんセンター）より「地域がん登録の標準項目と分類コード」、早田みどり先生（放射線影響研究所）より「多重がんの取り扱い」の各テーマでお話しをいただきました。地域がん登録事業が現在課題としている実務上の問題に対する対応や今後の基盤整備、精度向上の方向性につき理解を深める有意義な機会となりました。

地域がん登録が疫学研究に活用され、保健医療政策を決定する上での根拠を提供し社会に貢献することへの期待は近年ますます高まっていると考えます。今回の総会研究会が地域がん登録事業のさらなる発展に寄与することを願ってやみません。

第 14 回総会研究会（東京）のご案内

祖父江 友孝

国立がんセンターがん予防・検診研究センター情報研究部

この度、地域がん登録全国協議会の第 14 回総会研究会を担当させていただくことになりました。東京では初めての開催となります。不慣れではありますが、関係者一同、精一杯頑張りたいと思いますので、よろ

しくお願い申し上げます。

日程は、平成17年9月2日(金)に総会研究会を、翌3日(土)に実務者研修会を開催する予定です。例年とは順番が逆になっていますのでご注意下さい。場所は、両日とも国立がんセンター内国際交流会館3階会議場を予定しています。

ご承知の通り、国立がんセンターでは地域がん登録の実務を担当しているわけではありませんが、昨年より第3次対がん総合戦略の中で、地域がん登録の体制整備にかかわる研究班を担当することになりました。そこで、総会研究会のテーマは「地域がん登録の精度向上と標準化」とし、同様の内容でシンポジウムを企画する予定です。特別講演としては、International Association of Cancer Registries (IACR) の President である Max D. Parkin 先生をお招きして、“Standards to ensure quality of cancer registry data” と題してお話しいただき、わが国における地域がん登録の体制整備の強力な後押しをしていただこうと考えています。Parkin 先生は、同月13-15日にアフリカのウガンダで行われる IACR 総会も主催されますので、超多忙な中での来日をお願いすることになりました。講演は英語ですが、和訳したスライドと通訳を準備する予定です。また、最近急速に体制が整備されてきた韓国の地域がん登録を担当しておられる韓国国立がんセンターの Hai Rim Shin 先生にも特別講演をお願いすべく交渉しています。両先生を交えての少人数によるワークショップを9月1日に企画する予定です。

実務者研修会では、多重がんの取り扱い、進行度分類のコーディング、個人情報安全管理措置など、地域がん登録にかかわる実務についての実践的な情報交換の機会を提供できるようにと考えております。土曜日の開催になりますので、東京近郊の地域がん登録に関心のある方々にも是非参加していただければと思います。教育講演では、個人情報保護ガイドラインや、地域がん登録の法的整備に関する話題で講演を企画する予定です。なお例年通り、ポスター発表(優秀ポスターに対する各賞の贈呈)も予定しておりますので、どうか奮って演題を出していただくようお願い申し上げます。

東京での開催は味気ないと思われるかもしれませんが、ここのところ築地界隈は魚河岸を中心として外人さんも訪れる観光スポットとなっています。会議の前後に、場内、場外市場などにも立ち寄っていただい

て、日本の食文化を堪能していただければと思います(残念ながらあまり安くはありません)。第14回総会研究会の開催に向けて、精一杯準備を進める所存でありますので、皆様方ご多数のご参加、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

第26回国際がん登録学会(IACR)報告と 第27回会議のご案内

伊藤 秀美
愛知県がんセンター研究所 疫学・予防部

第26回国際がん登録学会(IACR)が、中国の北京市において2004年9月14-16日に開催されました。道路を自転車が埋め尽くしているというのがこれまでの中国の大都市のイメージでしたが、今の北京では自転車は端の方に追いやられ、それに代わりおびたしい量の自動車が傍若無人に走り回っていました。北京に交通ルールは存在していないのかもしれない、と錯覚するほどでした。渋滞も想像以上で、学会が主催した北京オペラ観劇のために北京市内を移動しただけで2時間以上かかり、オペラを半分しか見ることができなかったのには驚きました。高度成長まっただ中の北京の北部に位置する会場(北京国際会議場)に、約38カ国から約200名の参加者が集まりました。日本からは14名が参加いたしました。

主題は、“Promoting Cancer Registration in the Developing Countries & Enhancing Cancer Prevention and Control throughout the World”で、発展途上国のがん登録の現状やスクリーニング戦略、リスク要因、一次予防、頭頸部がんの疫学、職業とがん、肝がんと予防、など様々な内容で8つのセッションがあり盛りだくさんでした。肝がんのセッションでは大阪成人病センターの津熊秀明先生が基調講演、それに続いて同センターの田中英夫先生が口演をなさいました。印象に残ったのは、フィンランドの Dr. Hakama 先生の発表で、すべてのスクリーニングプログラムにおいて地域がん登録がデザインを供給し、様々なデータを集め、それらを評価する、といった内容でした。スクリーニングプログラムは無作為化試験での評価のみならず、プログラムの導入後がん登録でモニターしていくことが大切であるといったとても教科書的な内容でしたが、日本でもがん登録から得られたデータが国のがん対策へ結びつけられる時代が近い将来くるかしら？